

中学校国語科 実践事例Ⅱ ～「深い学び」の実現に向けて～

単元名
「立場を尊重して話し合おう」
(国語2 光村図書)
第2学年 A話すこと・聞くこと

内容のまとめり
第2学年
【知識及び技能】(2)情報の扱い方に関する事項
【思考力、判断力、表現力等】「A話すこと」

1 単元の目標

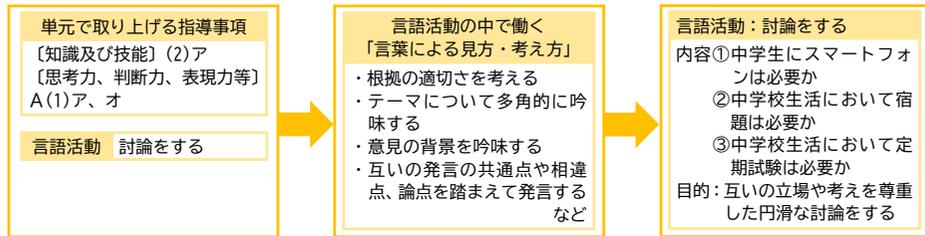
- 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] (2)ア
- 目的や場面に応じて、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。
[思考力、判断力、表現力等] A(1)ア
- 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。
[思考力、判断力、表現力等] A(1)オ
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 「言葉による見方・考え方」を鍵に、「深い学び」につなげるために

- 本単元における「深い学び」を実現している姿とは
「互いの立場や考えを尊重した討論をする」という言語活動に取り組む中で、
・根拠の適切さを考えたり、テーマについて多角的に吟味したりして、異なる立場や意見を想定しながら伝え合う内容を検討する姿。
・意見の背景を吟味したり、互いの発言の共通点や相違点、論点を踏まえて発言したりして、互いの立場や意見を尊重しながら討論を進め、結論を導くために考えをまとめる姿。

(2) 授業の実際

ポイント① 「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動を設定する。



言語活動 肯定・否定・審判の立場に立ち、3つのテーマで、互いの立場や考えを尊重した討論をする。

ポイント② 単元を通して、生徒が「言葉による見方・考え方」を自覚的に働かせることができるようにする。

【指導の計画 (全5時間)】

時	主な学習活動
1	○学習の見通しをもつ。 ○討論のテーマを知り、それぞれの立場における意見の根拠となる情報を収集する。
2	○討論のテーマについて、チーム内の役割 (意見・質疑・反論) において発言する内容を検討する。
3	○テーマごとに立場をローテーションしながら討論をする。
4	○討論を振り返り、再度討論をするとした場合に発言する内容を検討する (「リトライタイム」)。
5	○討論を通して学習したことを振り返る。 ○単元全体の学習の振り返りをする。

ポイント②の具体を、第1時、第2時、第4時及び第5時を取り上げて、説明します。

第1時 単元の見通しをもつ場面

単元の見通しをもつことができるように説明する

単元で育成を目指す資質・能力や言語活動について説明することで、生徒は、どうすれば互いの立場や意見を尊重した討論になるのか考えながら言語活動に取り組むことができるようになります。

今回の単元の目標 (資料1) は右のとおりです。討論をしている様子の動画を見て、「互いの立場や意見を尊重した円滑な討論」にするために必要なことを考えてみましょう。

※二重線部…言語活動の目的

○単元の目標
この単元では、異なる立場や考えを想定しながら集めた情報を整理し、根拠の適切さを考え、伝え合う内容を検討する力や、互いの立場や意見を尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる力を伸ばす学習をします。
具体的には、3つのテーマで討論をします。まず、討論に向けて伝え合う内容を検討し、次に、実際に討論をしながら、結論を導くために考えをまとめます。互いの立場や意見を尊重した円滑な討論を目指します。

資料1 単元の目標

※傍線部…本単元で育成を目指す資質・能力
破線部…単元で取り組む言語活動
二重線部…言語活動の目的

「互いの立場や意見を尊重した円滑な討論」にするためには、どのような準備が必要でしょうか。

「互いの立場や意見を尊重した円滑な討論」にするためには、どのようなことが必要なのかな。

動画では、話し手が意見だけではなく、意見を裏付ける根拠まで示していて、聞き手に分かりやすく伝えていました。だから、根拠まで示すことができるように準備する必要があります。

※ハイライト…言語活動の中で働かせる「言葉による見方・考え方」
確かに、意見を裏付ける根拠が示されていると、意見が伝わりやすくなりますね。ほかにはどのようなことが必要だと思いますか。

動画では、相手の発言を聞いた直後に、その内容に合った反論をしていました。どのような発言が相手から出てくるのか予想して、自分の発言する内容を準備していたと思います。

どのような発言が相手から出てくるのか予想するということは、相手の立場に立ってテーマについて考える、ということでしょうか。

そのとおりです。テーマについて、自分たちの立場だけではなく、相手の立場からも考えることで、どのような発言したらよいか検討することができます。それでは、実際に討論をする際には、どのようなことに気を付けるとよいでしょうか。

相手の意見の内容だけを捉えるだけではなく、どのようにしてその意見が出たのかを考えるとよいと思います。そうすることで、より相手の意見が分かると思います。

討論をしながら、互いの発言の違うところや同じところを見付けるようにすれば、考えをまとめることにつながるといいます。

確かに、相手の意見の背景を吟味することは、互いの発言を検討したり、討論を円滑に進めたりする上で重要です。また、結論に向けて考えをまとめるためには、互いの発言の共通点や相違点、論点を踏まえながら発言することが重要です。これらを意識しながら、討論に向けて準備を進めていきましょう。

第2時 討論のテーマについて、各役割において発言する内容を検討する場面

言語活動の中で、どのような「言葉による見方・考え方」を働かせるのか意識できるような発問を行う
 討論のテーマについて、収集した情報を基に、自身の役割（意見・質疑・反論）において発言する内容を検討することで、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることができるようにします。また、生徒の発言を受け、適宜、「言葉による見方・考え方」を意識できるような声掛けを行うようにします。

討論のテーマ

- ① 中学生にスマートフォンは必要か
- ② 中学校に宿題は必要か
- ③ 中学校に定期試験は必要か

討論の立場のローテーション

	テーマ①	テーマ②	テーマ③
A	肯定	審判	否定
B	否定	肯定	審判
C	審判	否定	肯定

討論に向けて、収集した情報を基に、自分が担当するテーマや立場、役割において発言する内容を検討しましょう。その際、**自分の立場だけで考えるのではなく、相手の立場からもそのテーマについて考えるようにします。**

※**ハイライト**…言語活動の中で働かせる「言葉による見方・考え方」

私の役割は質疑ですが、この時間は何をすればよいですか。討論で相手の発言を聞かないと、発言する内容を検討することができないと思います。

確かにそうですね。では、相手の立場から出てきそうな発言を予想してみましょう。
異なる立場からもテーマについて考え、どのような情報からどのような意見が導き出されるかを予想し、発言する内容について検討することが、互いの立場や考えを尊重した討論につながります。

「言葉による見方・考え方」を意識できるようにする発問

「言葉による見方・考え方」を意識できるようにする声掛け

テーマ：①
立場：肯定
役割：意見

「緊急時の連絡手段で必要」だと思うけど、そう発言すると、否定の立場から「公衆電話を使えばよい」という意見が出そうだ。でも、最近、公衆電話をあまり見かけないな。インターネットで現在設置されている公衆電話の数を調べると、根拠になるかもしれないな。

テーマ：②
立場：肯定
役割：反論

もし自分が否定の立場だったら、「宿題があることで自分がしたい勉強ができない」と発言するかもしれないな。では、それに反論するためにはどのような情報が必要かな。

テーマ：③
立場：否定
役割：質疑

肯定の立場から「定期試験に向けて勉強しようという動機付けになる」という意見が出るかもしれない。試験があるから勉強しようという考え方は、学習する姿勢として正しいのか、確認しておきたいな。

第4時及び第5時 「言葉による見方・考え方」を、再度働かせる場面

「言葉による見方・考え方」を働かせる場面を繰り返すような単元構成にする
 本単元では、全てのテーマで討論をしたあと、第4時に「リトライタイム」として、各討論を振り返り、以下の2つの課題に取り組みます。

- 課題① もし、同じテーマや立場、役割でもう一度発言するとしたら、どのような内容にするか
- 課題② もし、異なる立場や役割で発言するとしたら、どのような内容にするか

討論で学習したことを生かしなが、再度、発言する内容について考える場面を設定し、その上で単元全体の学習を振り返ることで、言葉への自覚をより高めることができるようにします。

第4時

〈討論を振り返る〉

全てのテーマで討論が終了しましたね。討論を振り返ってみましょう。

意見はしっかりと伝えましたが、適切な根拠を示すことができなかったと思います。

否定の立場から予想していなかった発言がありました。テーマについて、もっと多角的に考えておかないといけなかったと思います。

互いの発言の共通点や相違点、論点を考えながら発言することができませんでした。互いの発言を比較するために、意見の背景について質問をすればよかったです。

〈「リトライタイム」に取り組む〉

討論の振り返りを踏まえて、「リトライタイム」に取り組みましょう。その際、**根拠の適切さを考えることや、テーマについて多角的に吟味すること、意見の背景を吟味したり互いの発言の共通点や相違点、論点を踏まえたりすること**を、意識するようにしましょう。

※**ハイライト**…言語活動の中で働かせる「言葉による見方・考え方」

討論のときは、適切な根拠が示せず、あまり説得力がなかったな。**根拠を複数示したり、どのように意見が導き出されたのか丁寧に説明したりすることで、説得力を高めよう。**

テーマ①について、「SNSや動画視聴などの時間が長い子供ほど、学力が低い傾向がある」という情報があるな。否定の根拠となりそうだけど、**肯定の立場から考えてみると、「SNSや動画視聴は学習でも活用することができるから、スマートフォンは不必要であるという根拠にはならない」と反論できそうだ。**

意見の背景が分からなかったから、相手の発言をきちんと捉えることができなかったな。**「その意見の根拠は何か」と質問することで、意見の背景を理解して、互いの発言の共通点や相違点を見いだすことができるようにしましょう。**

第5時

〈単元全体の学習を振り返る〉

「今回の単元で身に付いた力は何か」、「身に付いた力をどのような場面で生かすことができるか」という視点で、単元全体の学習について振り返りをしましょう。

説得力が高まるように**根拠の適切さを考えたり、相手の立場に立って物事を多角的に考えながら発言する内容を検討したりする力が付いた。また、互いの立場や意見を尊重しながら討論を進め、結論を導くために考えをまとめるには、意見の背景を吟味したり、互いの発言の共通点や相違点、論点を踏まえて発言したりすることが重要だと分かった。特に、物事を多角的に考えることは、意見文を書く際にも生かすことができる力だ**と思う。

※**ハイライト**…言語活動の中で働かせた「言葉による見方・考え方」